

法忍寺通信

発行者 皆田世雄
発行所 真宗大谷派 法忍寺
住所 岐阜県不破郡関ヶ原町
電話0584-43-0097 FAX 0584-43-0320
ホームページ <http://www.honinji.or.jp>

生きる指針を示すエピクテトス

自然界の恩恵を受け、自然界を構成する一つである人間は、時代社会のさまざまな問題を抱え、また自分自身に対しても苦悩する唯一の生き物である。

昨今、国の将来を決定していく政府のトップや政党のトップが本音を漏らし、大衆からブーイングにあうと、マスコミが言葉の一部だけを取り上げたとか、真意が誤解されたと言いつつ、政治的哲学、政治的信念のなさを露呈する出来事が連続している。

経済界は経済の発展と安定こそが、大衆の幸せの絶対であると公言してはばからない。そのためには労働者の人間としての尊厳よりも、目的達成のための道具としか見ていないのではないかと思ってしまう現代である。

国家として国民の権利と幸福を目指すため、本来、人間として精神的豊かな生活を構築することを優先させるべきなのに、相変わらず、20世紀後半の高度経済成長時代の反省もせず、政治家・経済界は自らの思い込みで、日本を導こうとしている。

こうした社会で生活し、個の尊厳を維持できず、精神的疾患に侵される人々が増加傾向にあることは否定できない。

古代ギリシャの哲学者、エピクテトス（55-135年）は奴隷でありながら、ストア学派、ムソニアス・ルプスに学び、ストア主義の歴史上重要な哲学者と言われている。

彼は著作を残していないが弟子アリアノスが、講話から記述したものを残しており、世にエピクテトスの思想が伝えられた。

エピクテトス語録によれば、自然のままの心になることを如実に表していると見ることができる。いくつかの語録を記述してみると、

「ただひとつの人間の良心のみが、あらゆる難攻不落の要塞より安全なり。」

「汝善ならんとせば、まず汝の悪なるを信ぜよ。」

「自然に強制を加えてはならず、むしろ、これに従うべきなり。」

「幸福への道はただ一つしかない。それは、意志の力でどうにもならない物事は悩んだりしないことである。」

「与えられたるものを受けよ。与えられたるものを活かせ。」

「人生の自然な目的によって計るとき、貧しさは大いなる富となり、限度を知らぬ富は大いなる貧しさとなる。」

「死は我々にとって何ものでもない。なぜなら、我々

が存在する時には、死はまだ訪れていないのであり、死が訪れた時には我々は存在しないのだから。」

「わずかなもので満足できぬ者は、何ものにも満足できぬ。」

これらから現代人が忘れがちな心の有り様を、思い起こされることに気づく。

明治の宗教家・哲学者、清沢満之は「予が三部経」として「阿含経」、「エピクテトス語録」、「歎異抄」を選び、西洋思想、東洋思想（仏教の原点）、さらには真宗の信仰思想と展開させて、彼の後の思想に深く浸透し、決定的な影響を与えている。

彼は、エピクテトスを敬慕する理由として「一言に申せば奴隷の学者と云ふ点であります。」と述べ、学者というものは空論空議をなすことが多いが、彼は奴隷の身分でありながら、哲学を学んでいるのだから余程趣味ある人物であると思う、と述べている。

確かにエピクテトスの語録から見えてくるものは、頭で考えられた真理というよりも、体験を通して肌で感じた真理ということができる。

また、「汝善ならんとせば、まず汝の悪なるを信ぜよ。」から読み取れるは、悪人正機説と同意であり、親鸞の浄土思想とも共通する思考をもっている。

体験的哲学の確立を果たしたエピクテトスの言葉から、自然な人心の有り様を導き出されていることを、現代を生きる多くの人に読んでもらいたいものである。



責任役員・総代の異動

このたび、法忍寺責任役員ならびに総代に異動がありました。今後ともよろしくお願ひします。また退任された方々にはたいへんお世話になり誠にありがとうございました。

（敬称略）

責任役員	谷川 健治	（西 町）	[新 任]
総 代	高木 正之	（東町二）	
総 代	伊藤 總	（東町一）	[新 任]
総 代	毛利久仁彦	（公門六）	
総 代	高木 義夫	（公門五）	
総 代	水野 浩司	（公門一）	
総 代	井野洋一郎	（柴 井）	
総 代	毛利 清春	（瑞 龍）	
総 代	楠 達男	（野 上）	[新 任]
【退 任】	高木 弘	（陣場野）	[死去により]
【退 任】	岩田 義美	（野 上）	
【退 任】	高木 悦雄	（東町一）	



お内仏のお骨はお寺に納骨しましょう

分骨された小さなお骨箱が永い間お内仏に安置されたままになっていませんか。

お墓以外に納骨をすることを願ひ、分骨された大切な方のお骨です。然るべき時に納骨をして差し上げることが望まれます。

法忍寺では本堂阿弥陀様の真下に納骨場所があります。永代に亘りお寺の仏様とのご縁を大切にお預かりし、毎年8月13日にはお盆法要を行っています。

ぜひお寺にご相談ください。（礼金6万円以上）

法忍寺以外で納骨できる場所は本山（東本願寺）須弥壇収骨または大谷祖廟（京都東山）などがあります。

永代経祠堂金

「永代経」とはお経の名前ではなく、「永代経をあげる」といえば、「永代経懇志をあげる」ことであり、「永代経がつとまる」といえば「永代経読経法会」がつとまることをいいます。お寺によっては、「祠堂経」ともいいます。

とともに、子や孫へ教えを聞くことの大切さが伝えられていくようにとの願ひをこめて、永代経懇志をあげられた先祖の遺志が、この法座の基になっています。

「お寺がたちいくように」と、ご寄付された先祖方のほんとうの願ひは、私たちのために「お寺」を残しておきたいというところにあります。「お寺」とは、縁のあるものがより集まって、本当の仏教を聞き続ける場であり、私に仏教を聞かせようとする私のための特別席なのです。

しかしながら、今日では、「永代経」といえば、「縁ある人が亡くなったとき、永代までお経をあげ続けてもらうために、お寺にお金を納めておくこと」と、思いこみ、「お経は、先祖に聞かせるもの」「先祖の供養は、お寺に任せておくもの」、ということになってしまっているようですが、「お寺」は、亡くなった人を閉じこめておくところではありません。

お経とは、苦しみ、悩み、しかもなお真剣に生きようとする人間に対して、仏陀釈尊が、生ききる道を教え説かれたものであります。道を求めて耳を傾けさえすれば、すべての人間に響いてくる真実の言葉があふれているのです。

思い上がってわが身を知らないこの私に、先祖が「ほんとうの教えを聞いて、わが身の正体を知れ」との願ひをこめて、「永代経さん」を遺しておいてくださったのです。

（1月から8月までのご懇志・本堂再掲）敬称略
〈門徒〉

青木 誠	（西 町）	亡母	2 5 万円
米田 敏泰	（公門五）	亡兄	1 5 万円
佐藤 明美	（垂 井）	亡夫	2 0 万円
高木 俊洋	（東町二）	亡父	3 5 万円
毛利 慎一	（公門五）	亡父	2 0 万円
松岡 澄廣	（下谷川）	亡子	1 0 万円
井野 修平	（柴 井）	亡母	3 0 万円
山田 隆	（公門六）	亡子	2 0 万円
山田 正義	（西公門）	亡子	2 0 万円
上津 功	（陣場野）	亡父	2 0 万円
金沢 利幸	（東 京）	亡母	1 0 万円
田中 良典	（大 垣）	亡母	1 0 万円

〈他門徒〉

多賀 健児	（東町一）	亡父	7 万円
高木 進	（西 町）	亡母	1 0 万円
西脇 哲郎	（大 高）	亡父	1 5 万円

ホームページアドレスが変わりました

<http://www.honinji.or.jp>